

めぐみ

ガラシアニュース

<http://www.gratia.or.jp/>

2022

No. 173



目次

コロナとホスピス

レスパイト入院について

訪問看護でのICT(情報通信技術)導入と情報共有について

「老健寺子屋 NLG(ニューライフガラシア)塾」開講のお知らせ

1枚のハガキ

秋鮭のクリームソースかけ

お知らせ

《リハビリテーション室移転します》

増改築工事で長らくご不便をお掛けしていましたが、2022年11月中央館3階に移転いたします。外来や病棟から館内移動が可能となります。

コロナとホスピス



ガラシア病院 顧問
／ホスピス長
伊藤 則幸

2020年2月 大型クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の物々しい新型コロナウイルス感染症の検疫作業を見ながら、これはいつ収拾がつくのかと漠然と不安に駆られました。それからすでに2年半たちますが記録的な猛暑の夏にマスクをして過ごすなどかつてでは考えられない日常が続いています。ウイルスといえば目の敵のようにいわれますが生物の進化の過程では重要な働きをしてきました。ウイルスと癌はどこか似たところがあります。癌ももともと自分の体を構成する一部ですが自律性を失ったがゆえに人間本体を命の危険にさらすために闘う相手として認識されます。いずれも根っからの患者として峻別し完全に排除することは無理な気がします。

とは言うものの、新型コロナウイルス感染症は私たちの生活の隅々まで深刻な影響を及ぼしています。病院や高齢者施設は当初から厳しい面会制限が続いています。緊急入院したあと面会がかなわないままにホスピスに転院してこられ、久しぶりに会った患者さんの変化に驚き慨嘆される家族の姿

を何度か見ました。その埋め合わせをするかのように面会の希望が強いのは頷けます。コロナ前にはホスピスでは人も時間も面会制限はありませんでした。大切な時間を家庭と同じように過ごしてもらうためです。季節の行事のほか、誕生日や家族の記念日などの機会をとらえて積極的に人が集まる場を設けてきました。しかしウイルス感染対策のかなめとして密を避けることが言われている中で、これらの行事は縮小せざるを得ないのが現状です。面会制限は本来のホスピスの機能を果たすには大変支障がありますが患者さんに感染をもたらさないことは言うまでもなくスタッフの感染を予防し病院機能を失わないためにも必要です。病棟閉鎖となり患者さんの行き場が無くなるのが最も避けねばならない事態です。ホスピスのあるべき姿に近づけるために感染状況に応じて面会制限の試行錯誤を繰り返しているところです。大変不自由をおかけいたしますがご協力よろしくお願い申し上げます。

訪問看護でのICT(情報通信技術)導入と情報共有について

昨今、医療介護分野における情報の電子化が進む中、当訪問看護ステーションでも訪問先での電子機器導入をおこないました。その結果、記録の作成に要する時間が短縮され、業務の効率化を図ることができています。また、利用者様の記録が自動的に整理されてまとめられており、日々の変化に気が付き易くなりました。それぞれの記録や画像、動画を利用者様やご家族に見ていただく事も可能となり、それらのまとめた情報をケアプランガラシア(居宅介護支援事業所)、ガラシア病院やニューライフガラシア(介護老人保健施設)に直接届ける事が出来ます。当法人以外でも、かかりつけ医のクリニックや往診の先生に記録をお送りし、すみやかに指示を頂くことが可能となりました。

このような環境であれば、病状の僅かな変化を見逃せないような状態の利用者様の訪問看護でも、早期に変化を捉え、関係者と情報を共有することで、大事につながる前に適切な対応をすることが出来ます。そのため、ご自宅で一人暮らしをされている病状の不安定な利用者様におきましても、ご本人が希望される環境でより多くの時間を過ごしていただく事が可能となります。

特に当法人の訪問看護は居宅、病院、介護施設と綿密な連携が取れていますので、訪問時の体調変化を適宜評価して、自宅での療養が困難と判断した場合には入院(レスパイト入院など)や入所(ショートステイなど)を選択肢として、最適な対応を検討する事が可能となっています。

また、必要な場合は然るべき手順に基づき、市立病院などの高度な医療が可能な病院とも連携を取り、救急対応や入院の手配を致します。

私たちも、利用者様が安心安全に暮らせる環境を維持できるのであれば、ご希望に沿った生活を続けていただきたいと思います。これからも、ガラシア会の強みを活かし、病院や老健、ケアマネージャー及び事業所、主治医や各種サービス担当者と連携を取って、皆様が住み慣れた場所で安心して暮らせるように、より良いサービスをご提供いたします。

ガラシア訪問看護ステーション 福田 裕之



「老健寺子屋 NLG(ニューライフガラシア)塾」開講のお知らせ



介護老人保健施設
ニューライフガラシア
施設長
阿曾沼 克弘

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、私たちが生きる上で欠かすことのできない、「人と人とのふれあい」という基本的な手段を長期間にわたって奪ってしまいました。そのことは、社会全体に耐えがたい閉塞感をもたらしています。さらにネット社会におけるコミュニケーションツールの負の側面により、フェイクニュースを含む偏った言論が飛散し、世の中が敵か味方かといった極端な方向に分断されつつあります。

このような悲観的な状況の中で、日頃の仕事、生活とは全く関係のないテーマの話各界の専門家から聞くことは、広く教養を養うという意味と共に、昨今の息が詰まるような日々に、ひと時の清涼感を与えてくれるのではないかという思いもあり、この企画を考えました。

1～2ヶ月に1回程度、主として第二金曜日の夕方、ガラシア病院7階のホールで、講師の方に30～40分程度レクチャーしていただく予定です。レクチャーの対象としては、医療法人ガラシア

会の職員のみならず、近隣にお住いの一般の方々も考えています。

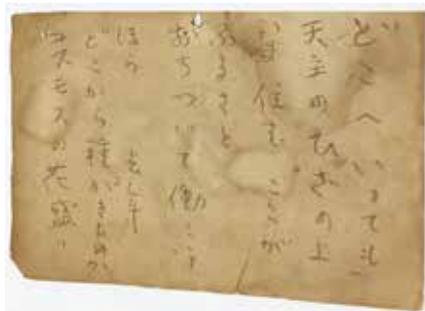
講師として予定しているのは、私の個人的なつながりから、京都大学人文科学研究所の元教授、愛媛大医学部生化学教室の教授、大阪大学文学部元教授(哲学専門)の方々などです。10月の開講を目指していますが、新型コロナウイルスの感染状況にもよるため、残念ながらまだ見通しはたっていません。それでも、第1回は中国史が専門の富谷至氏による「中国古代の人はギョーザを食べていたのか——中華料理の歴史(仮題)」というタイトルの興味深いお話を予定しています。富谷氏には内容を変えて5回程度、中国史に関わるレクチャーをお願いしています。

具体的な日程が決まりましたら、改めてご案内を差し上げます。年齢を問わず多数の方のご参加をお待ちしていますので、どうぞお気軽にお越しください。もちろん参加費は無料です。

1枚のハガキ

ある日病室に入るとセピア色のハガキに出会いました。「これは?」「これは永井隆先生が母に下さったハガキです。もう70年以上前のもので、母の形見なので大切にしています。」とのお返事でした。ハガキは昭和25年10月19日の消印が押されていました。

どこへいっても
天主のひざの上
いま住むここが
ふるさと
おちついて働こう
ほら 去年
どこから種がきたのか
コスモスの花盛り



＜永井隆博士の出された大切なハガキ＞

永井隆博士(1908年～1951年)は長崎医科大学で放射線科医として勤務しておられた1945年8月9日37歳で原子爆弾投下により重傷を負いました。病院は破壊され多くの医療者も負傷した中で援助活動をされ、原子爆弾投下直後の惨状を詳細に記録されました(長崎の鐘)。被爆から5年後に亡くなられた博士は多くの著書を残され、また、ご自分と同じように被爆し肉親を亡くし生活の場を奪われた人々にも心を寄せられました。このハガキの方は、まさにそうです。住む家を焼かれ、家族をなくし、仕方なく遠方の知人を頼っていかれた先から、さみしさや労働のつらさを博士にお便りしたのではないのでしょうか。そのお便りに対し博士のやさしさや思いやり、それでいて力強いお返事のハガキだと察します。

私たちは日本に原子爆弾投下77年後の今、ウクライナの現状と重ね合わせています。原子力発電所へのロシアの砲撃や悲惨な市民生活は、当時を思わせる恐怖そのものです。一日も早くこの状況が終わるよう世界中の人々は努力すべきです。

私たちも皆さんと心を合わせて世界の平和の為に祈りいたしたいと思えます。

『長崎の鐘』は、2022年3月ロシア語にも訳され読まれているようです(毎日新聞2022.8.9夕刊)。

写真の大切なハガキは、ご家族がガラシア病院に下さいましたので多くの方に観ていただきました。しかし、あまりにも貴重で大切なものなので、相談の上、長崎市永井隆記念館にお譲りすることにしました。いつの日かこのハガキが皆さんのお目にとまることを願っています。



左のハガキ投函の数日前に描かれたもので「長崎市永井隆記念館」よりコピーをいただきました。

＜永井隆博士の描かれたコスモス＞

『秋鮭のクリームソースかけ』

エネルギー 260kcal
塩分 1.5g (1人分)



ニューライフガラシアで提供しているメニューを家庭用にアレンジしました。魚は白身魚でも合います。パサつきがちな魚にクリームソースをかけることで食べやすくなります。余ったきのこは冷凍できます。汚れている部分は濡らしたキッチンペーパーでふき取り、石づきを落として小分けにし、袋に入れて冷凍します。調理の時は凍ったまま調理してください。

ニューライフガラシア 管理栄養士 加藤 紀子

材 料 (2人分)

- ◆ 秋鮭 …………… 2切
- ◆ 塩・こしょう …………… 少々
- ◆ 薄力粉 …………… 適量
- ◆ サラダ油 …………… 適量

クリームソース

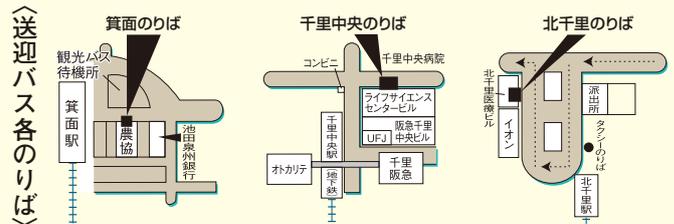
- ◆ 玉ねぎ …………… 1/4玉
- ◆ しめじ、しいたけなど …… 約60g
- ◆ 冷凍コーン …………… 10g
- ◆ シチューミックス …………… 1人分
- ◆ 塩 …………… 少々
- ◆ 水 …………… 50cc
- ◆ 牛乳 …………… 50cc
- ◆ マーガリン …………… 10g

作り方

- ① 秋鮭に塩コショウをし、薄力粉をまぶします。
- ② 熱したフライパンに油を敷き、中火で鮭を皮目から約4分焼きます。
- ③ 裏返し約4分火が通るまで焼きます。
- ④ 別の鍋にマーガリンを溶かし、玉ねぎ、キノコ類を入れしんなりするまで炒めます。
- ⑤ ④に水を入れ、沸騰したら火を止め、シチューミックスを溶かします。
- ⑥ 冷凍のコーン、牛乳を入れ再び火にかけ、とろみがついたら火を止めます。
- ⑦ 皿に鮭を盛り付けその上からクリームソースをかけます。



●千里中央・北千里・箕面駅からシャトルバスを運行しています。



ガラシア訪問看護ステーション

TEL 072-727-1866 FAX 072-729-3311
2020年8月から土曜日も開設しています

介護老人保健施設

ニューライフガラシア

TEL 072-729-2346 FAX 072-729-7951

指定居宅介護支援事業所

ケアプラン ガラシア

TEL 072-729-2347 FAX 072-729-3311

ガラシア園田クリニック

兵庫県尼崎市小中島2丁目17-1
TEL 06-4960-3800

医療法人ガラシア会
ガラシア病院 日本医療機能評価機構認定病院

〒562-8567 大阪府箕面市栗生間谷西6丁目14番1号
TEL.072-729-2345 FAX.072-728-5166
<http://www.gratia.or.jp/>

診療受付時間

平日 / 8:30~11:30
12:30~15:30
土曜日 / 8:30~11:30

休診日

日曜、祝祭日、土曜午後
12/30~1/3

編集後記

2022年9月中旬、ガラシア病院北館の庭にコスモスが咲き始めました。今号「1枚のハガキ」の永井隆博士が描かれたコスモスの絵によく似たところがありました(表紙写真)。満開ではありませんが、淡い緑色の茎と葉の中に桃色の花が映え綺麗です。コスモスは強い風が吹いて倒れても、また立ち上がり綺麗な花を咲かせます。病や戦禍など様々な困難の中でも、コスモスのようにまた立ち上がり新たに歩むことが出来るようにと永井隆博士も祈られたのではと思います。

N.F



編集・発行 広報委員会